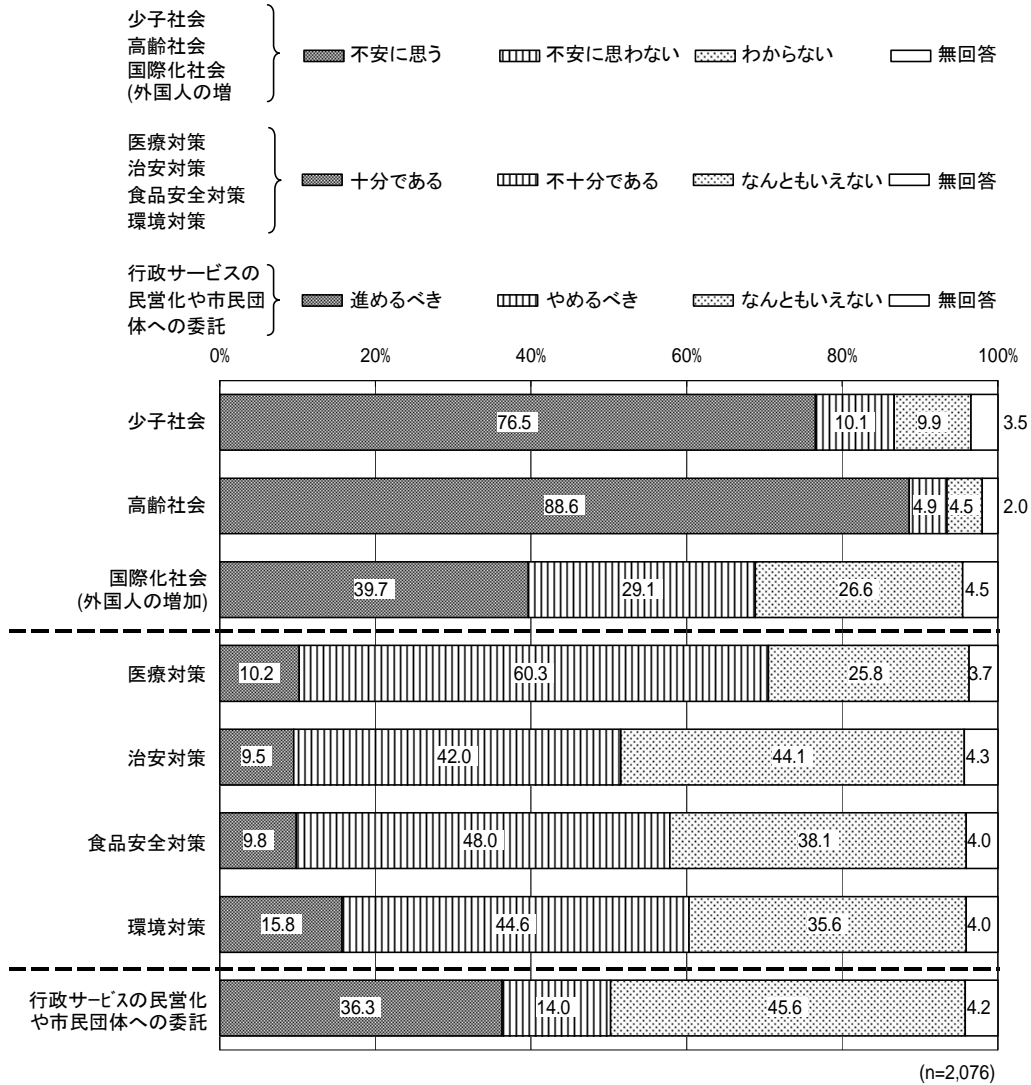


問4 茨城県を取り巻く社会環境の変化についての考え

【総括】

- 社会環境の変化については、高齢化の進行についての不安が最も強く、「不安」とした回答者が9割近くを占めた。同じく「今後の人口減少」についても「不安」とした回答者は8割近くを占めたが、「地域での外国人の増加」については「不安」とした回答者は4割弱であった。
- 各種対策について「不十分」とした回答者の割合は、「医療対策」において6割強を占めて最も多く、「治安対策」「食品安全対策」「環境対策」については4～5割を占めた。
- 行政サービスの民営化や市民団体への委託については「なんともいえない」が45.6%と半数近くを占め、「進めるべき」は36.3%、「やめるべき」は14.0%であった。
- 地域の代表的な存在である県民（地域代表者、県政モニター等）を対象とした地域代表者等調査の結果を見ると、「どちらともいえない」などの中間的な回答は一般調査に比べて減り、意見はより明確になる。不安の度合を問う「人口減少」「高齢化」「外国人増加」については、いずれも「不安に思う」割合は一般調査と大きな違いはないが、「不安に思わない」との意見は一般調査に比べて多くなった。対策の十分度合を問う「医療対策」「治安対策」「食品安全対策」「環境対策」については、いずれも「不十分」との意見が一般調査より多くなった。また、「行政サービスの民営化や市民団体への委託」については、「進めるべき」との意見が半数を超えており、一般調査に比べて多い。

茨城県を取り巻く社会環境の変化についての考え（総括）



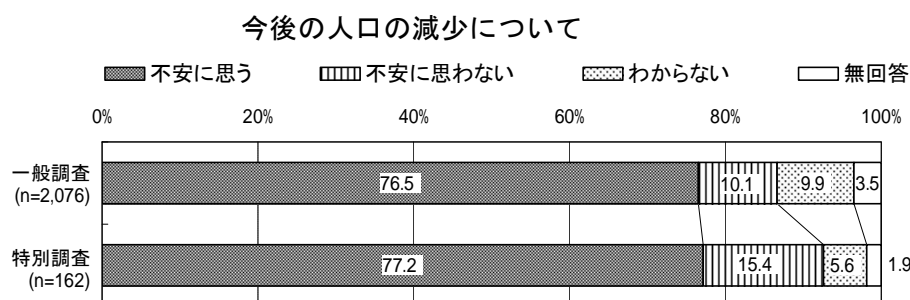
(1) 今後の人口の減少について

(全体集計)

- 人口減少については、「不安に思う」が76.5%を占め、「不安に思わない」(10.1%)、「わからない」(9.9%)はいずれも10%前後であった。

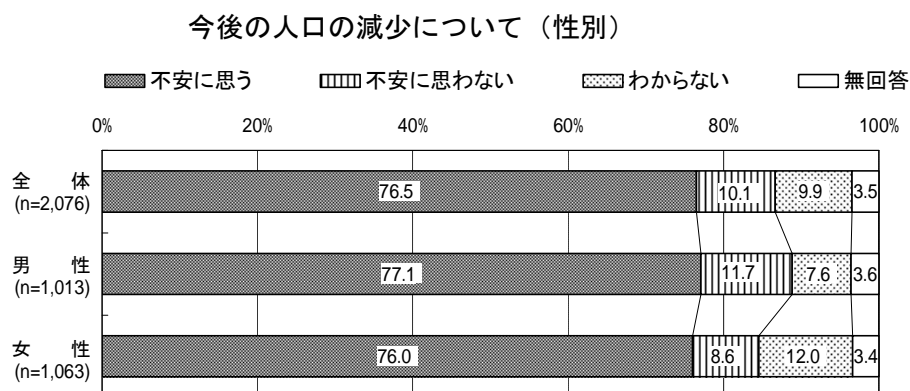
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においては、「不安に思う」(77.2%)の割合に大きな違いはないが、「不安に思わない」(15.4%)が一般調査に比べて多い。



(性別)

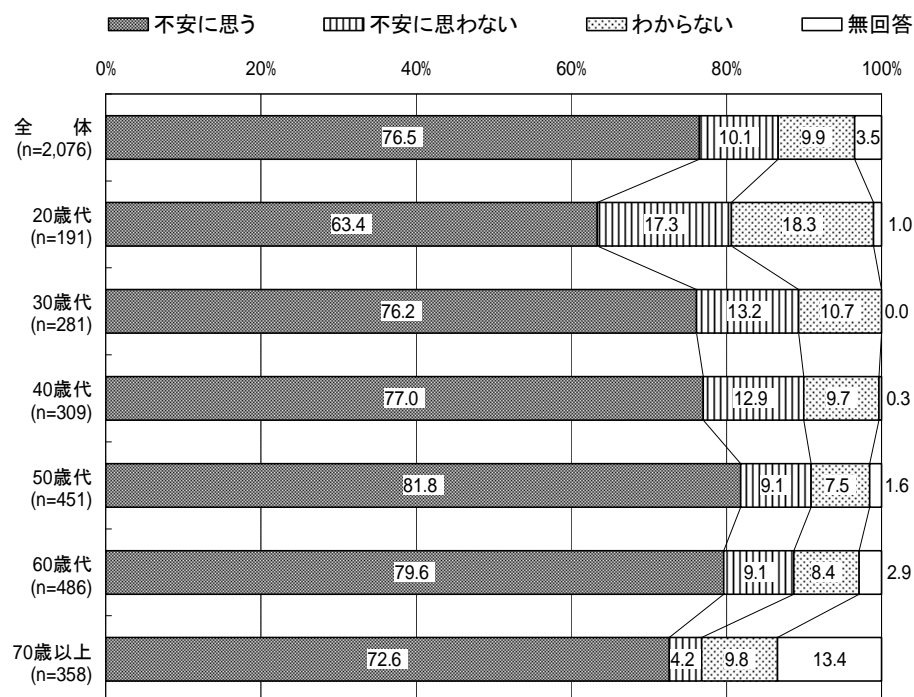
- 「不安に思う」割合は性別による大きな違いはないが、「不安に思わない」は男性の方が多く、女性では代わりに「わからない」が男性より多い。



(年代別)

- 「不安に思う」は20歳代では63.4%であるが、年代が上がるにつれて多くなり、50歳代で最も多く81.8%となるが、更に年代が上がるとその割合はまた少なくなっていく。

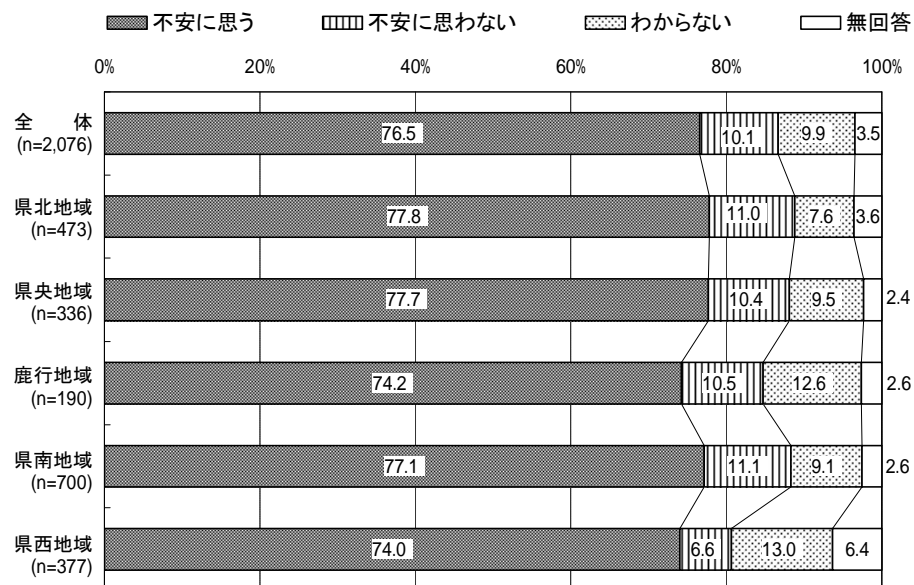
今後の人口の減少について（年代別）



(地域別)

- 「不安に思う」は県北・県央・県南地域では78%弱であるが、鹿行・県西地域では74%強と若干少ない。

今後の人口の減少について（地域別）



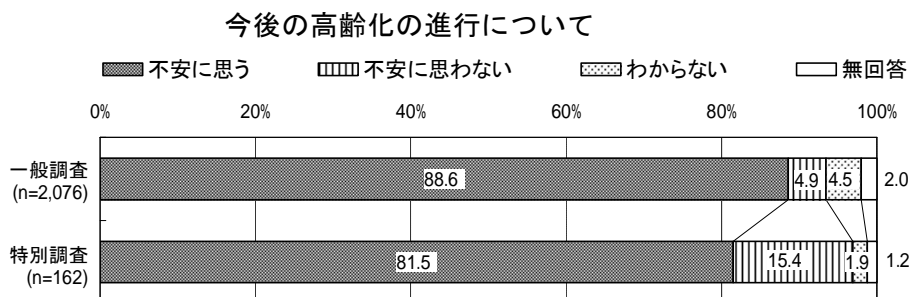
(2) 今後の高齢化の進行について

(全体集計)

- 高齢化の進行については、「不安に思う」が88.6%で9割近くを占め、「不安に思わない」(4.9%)、「わからない」(4.5%)はいずれも5%未満であった。

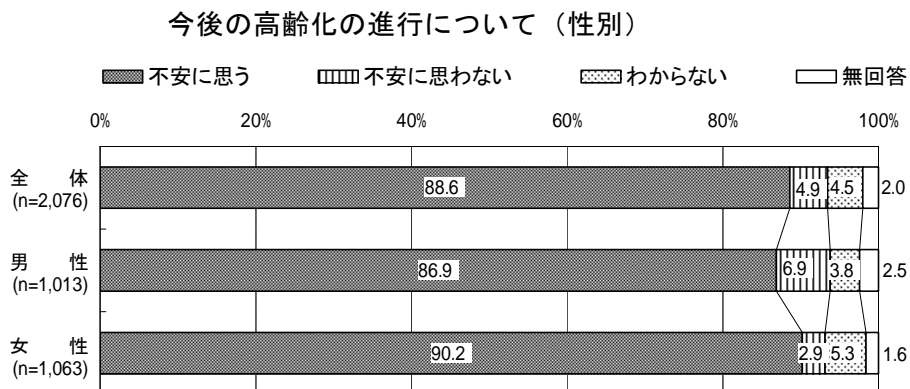
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・ 地域代表者等調査においては、「不安に思う」は81.5%で一般調査に比べて少なく、「不安に思わない」(15.4%)の割合が10ポイント強多い。



(性別)

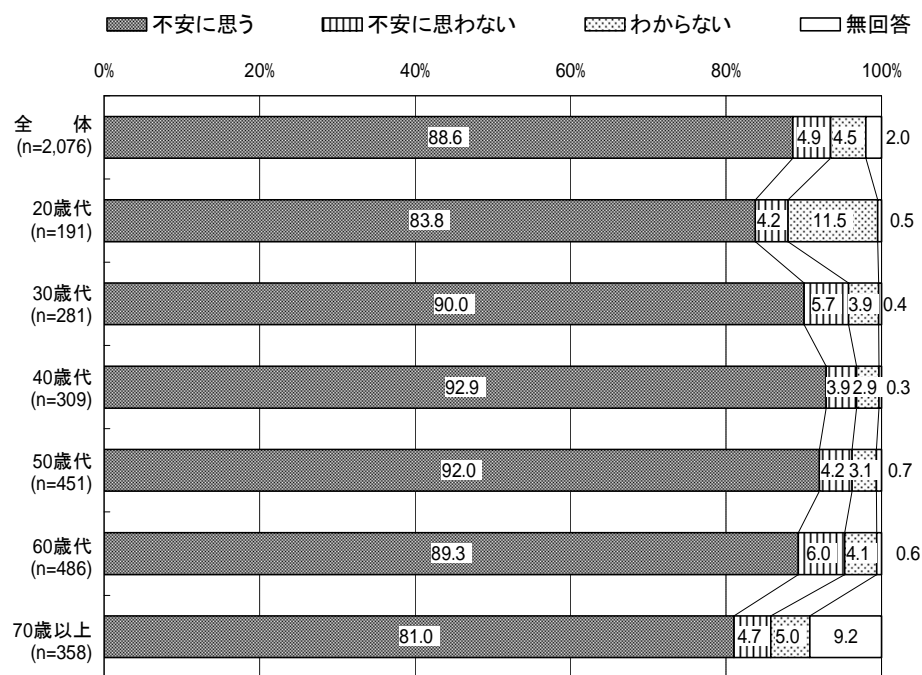
- 「不安に思う」は女性(90.2%)が男性(86.9%)より多い。



(年代別)

- 「不安に思う」は20歳代では83.8%であるが、30歳代(90.0%)，40歳代(92.9%)，50歳代(92.0%)では9割を超える。しかしながら、更に年代が上がるとその割合はまた少なくなっていく。

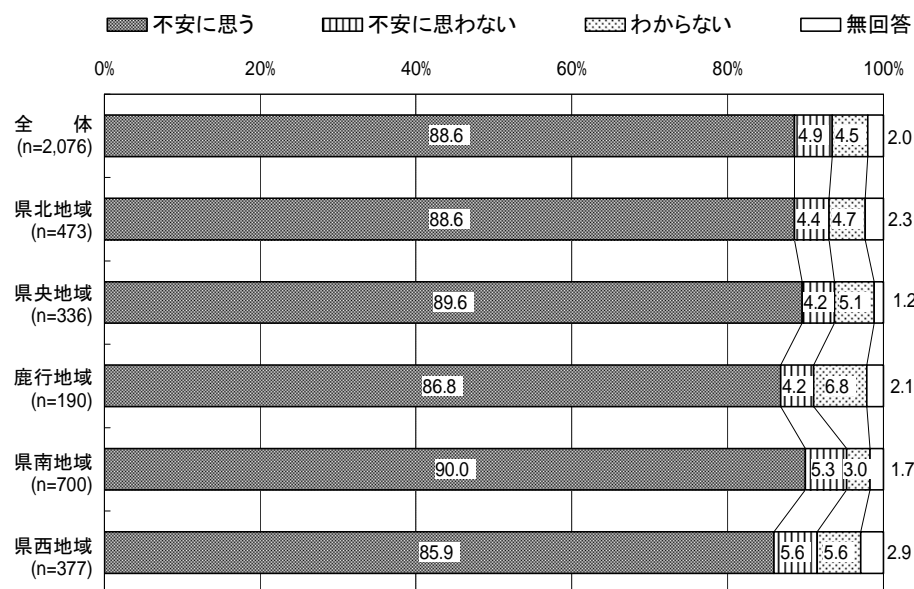
今後の高齢化の進行について（年代別）



(地域別)

- 「不安に思う」は県北・県央・県南地域では 89%前後であるが、鹿行・県西地域では 86%前後で若干少ない。

今後の高齢化の進行について（地域別）



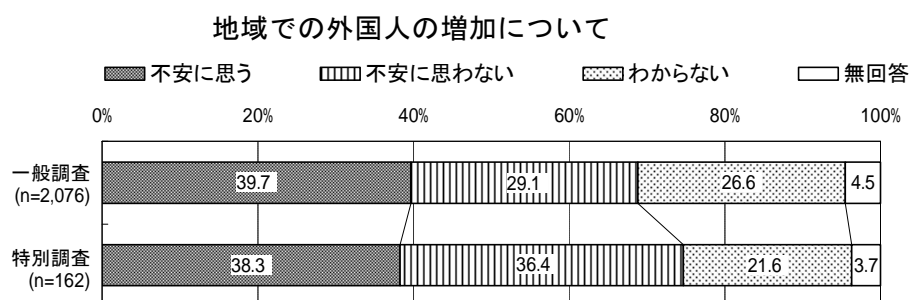
(3) 地域での外国人の増加について

(全体集計)

- 地域での外国人の増加については、「不安に思う」が 39.7%で最も多く、「不安に思わない」が 29.1%、「わからない」が 26.6%であった。

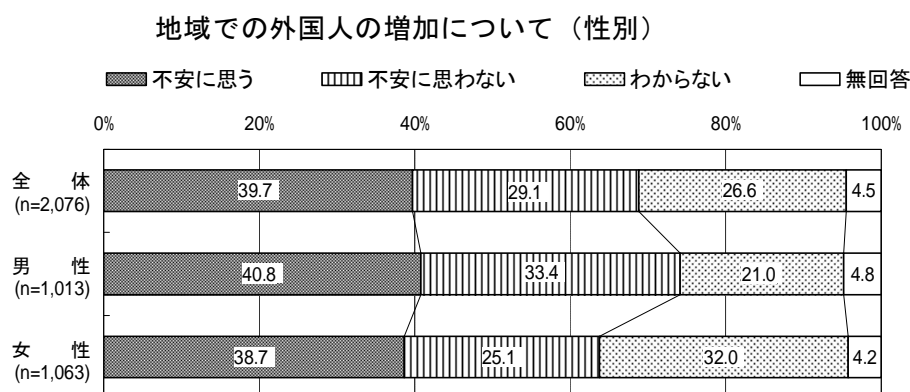
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・ 地域代表者等調査においては、「不安に思う」は38.3%でほぼ同じであるが、「不安に思わない」は36.4%で一般調査に比べて5ポイント弱多い。



(性別)

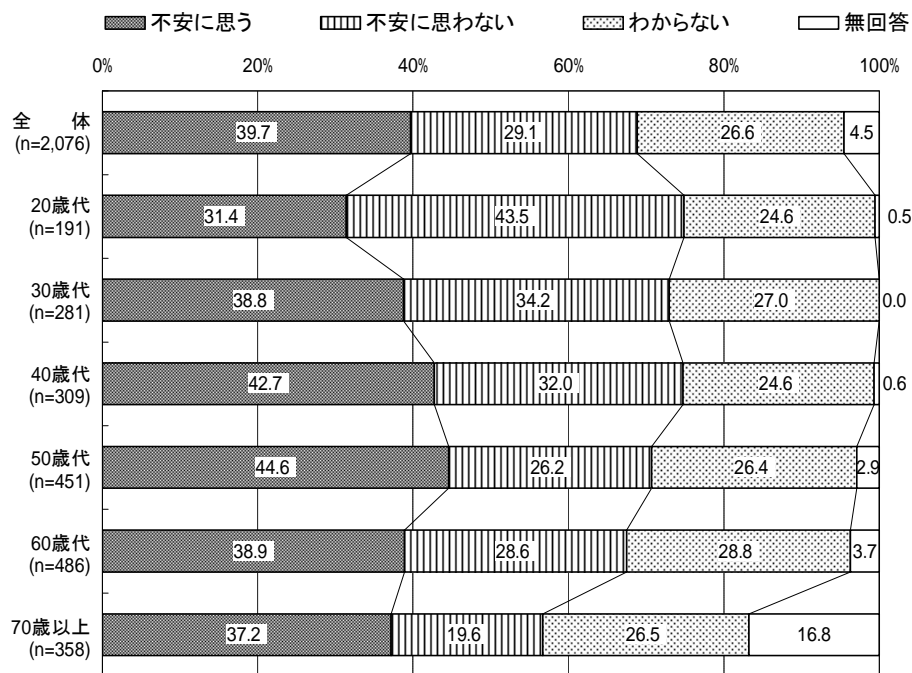
- 男女いずれも「不安に思う」が 40%前後を占めて最も多いが、その割合は男性の方が若干多い。但し、男性は「不安に思わない」(33.4%)も女性(25.1%)に比べて多く、女性では代わりに「分からない」が男性に比べて 10ポイント以上多い。



(年代別)

20歳代では「不安に思わない」が43.5%で最も多いが、30歳代以上では「不安に思う」が40%前後を占めて最も多くなり、特に40・50歳代では40%を超えている。

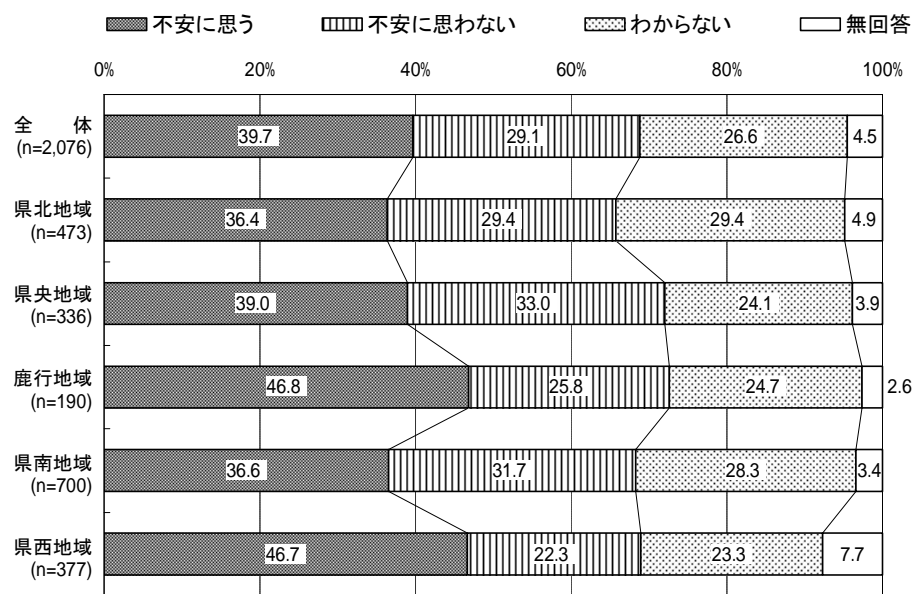
地域での外国人の増加について（年代別）



(地域別)

●全ての地域で「不安に思う」が最も多いが、その割合は県北(36.4%)・県央(39.0%)・
 県南(36.6%) 地域ではいずれも 40%未満であることに比べて、鹿行・県西地域では
 47%弱と多くなっている。

地域での外国人の増加について (地域別)



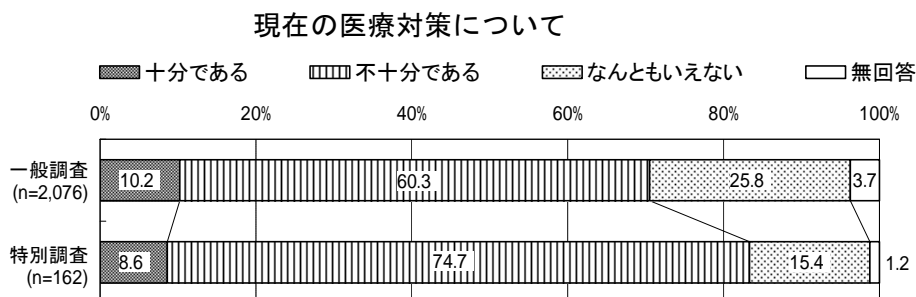
(4)現在の医療対策について

(全体集計)

- 現在の医療対策については、「不十分」が60.3%で最も多く、「なんともいえない」が25.8%、「十分」が10.2%であった。

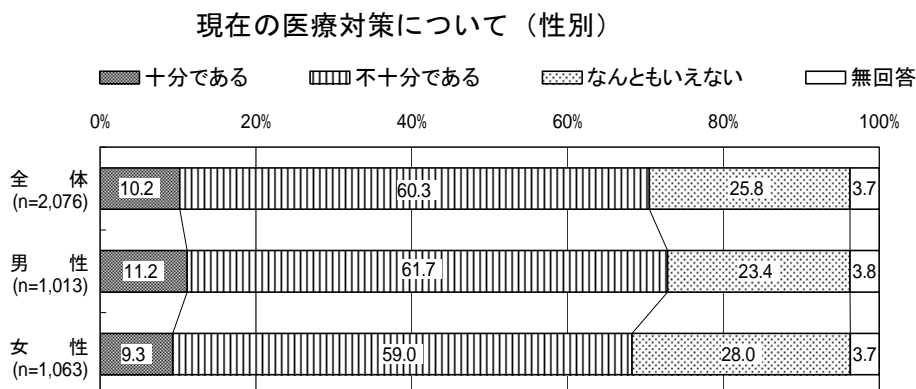
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においては「不十分」が74.7%を占めており、一般調査に比べて14ポイント強多い。



(性別)

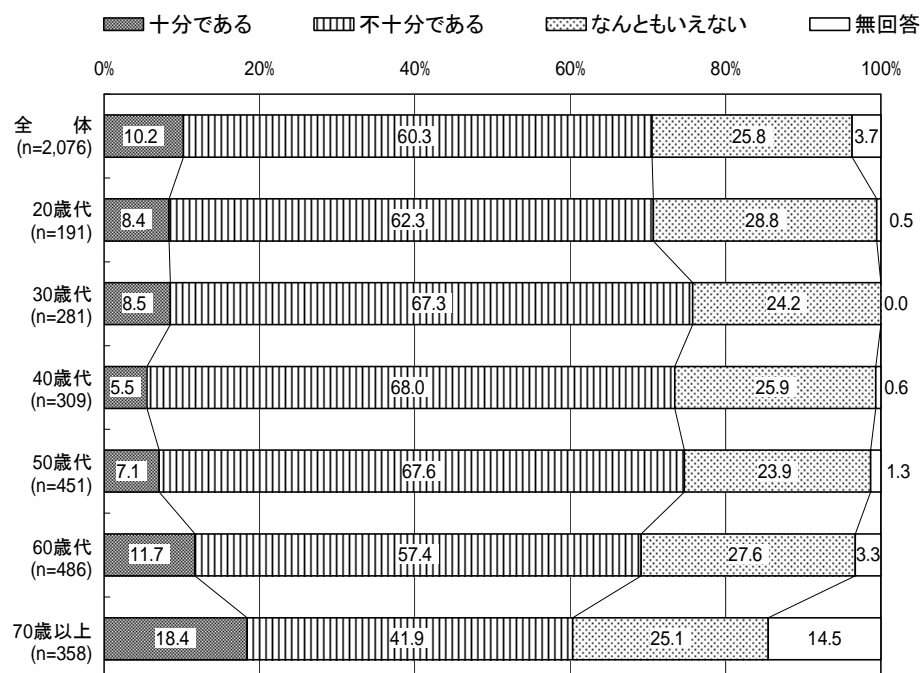
- 男女いずれも「不十分」が60%前後を占めて最も多いが、「十分」は男性の方が多く、女性では代わりに「なんともいえない」が男性より多い。



(年代別)

●いずれの年代においても「不十分」が最も多いが、20～50歳代ではその割合が60%を超えていることに比べて、60歳代・70歳以上では60%を切るようになり、特に70歳以上では41.9%にまで減少し、代わりに「十分」が18.4%で2割近くを占めるようになる。

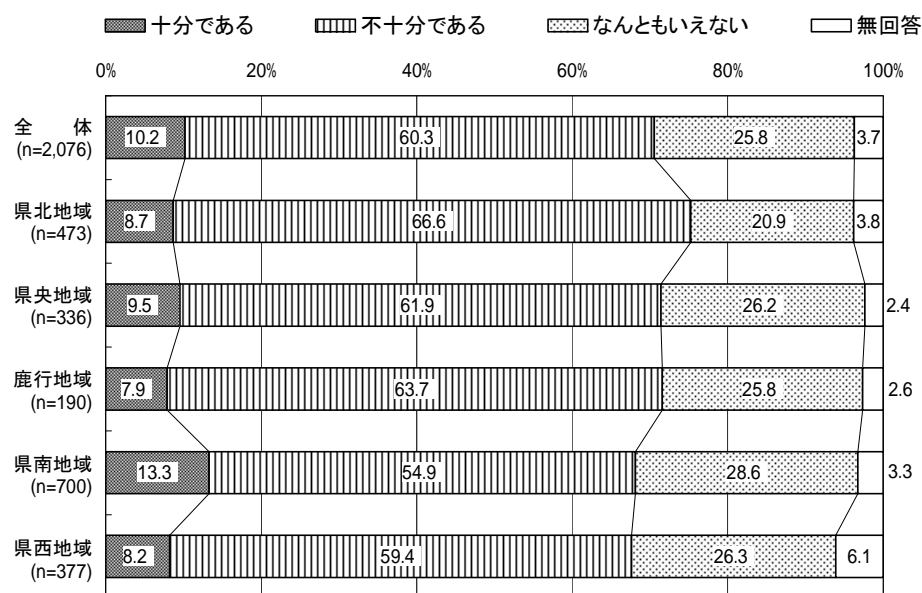
現在の医療対策について（年代別）



(地域別)

● いずれの地域においても「不十分」が最も多いが、その割合は県北地域（66.6%）で最も多く、また、鹿行（63.7%）・県央（61.9%）・県西（59.4%）地域でも60%前後を占めている。県南地域では同割合は54.9%と他地域に比べて少なく、「十分」が13.3%で他地域に比べて多い。

現在の医療対策について（地域別）



(5)現在の治安対策について

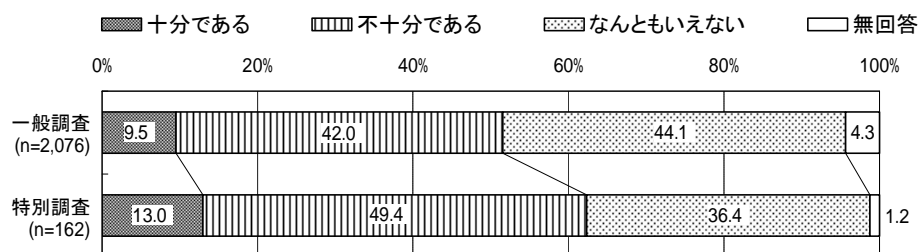
(全体集計)

- 現在の治安対策については、「なんともいえない」が44.1%で最も多く、「不十分」は42.0%、「十分」は9.5%であった。

〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においては「不十分」が49.4%を占めて最も多く一般調査に比べて7ポイント強多いが、一方、「十分」も13.0%を占めており、これも一般調査に比べて4ポイント弱多い。

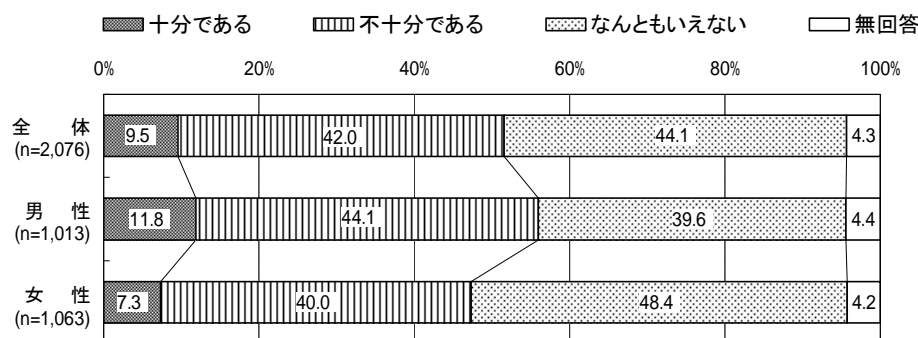
現在の治安対策について



(性別)

- 男性は「不十分」が44.1%で最も多いが、女性は「なんともいえない」が48.4%で最も多い。

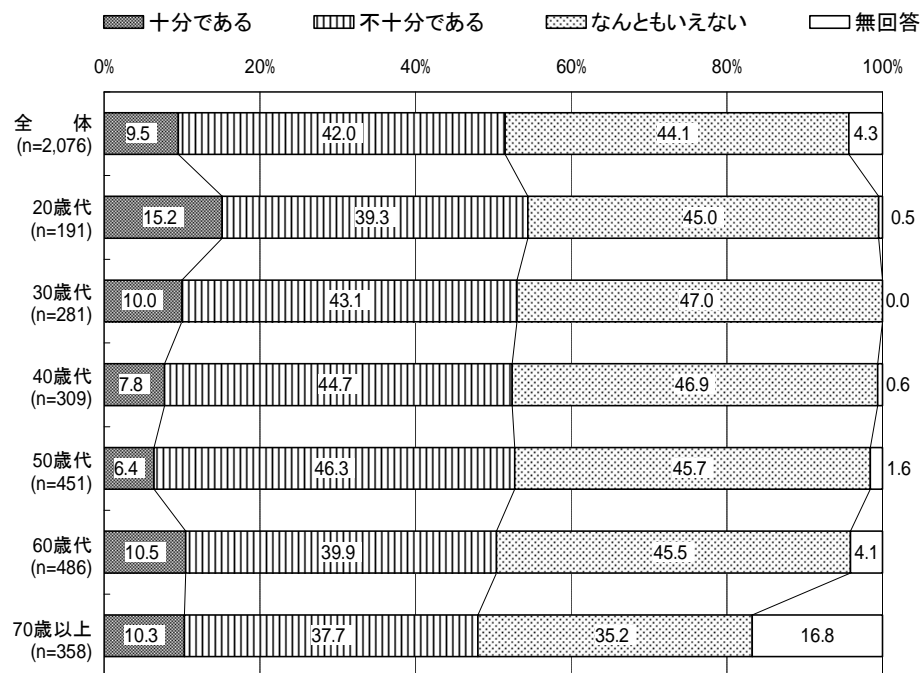
現在の治安対策について (性別)



(年代別)

20・30・40・60歳代では「なんともいえない」が最も多いが、50歳代・70歳以上では「不十分」が最も多い。

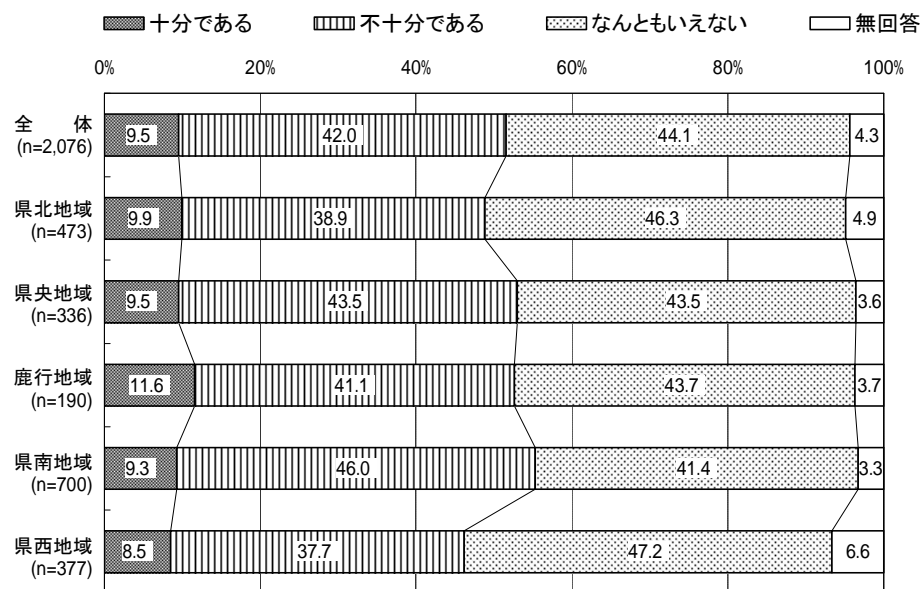
現在の治安対策について（年代別）



(地域別)

●ほとんどの地域で「なんともいえない」が45%前後を占めて最も多いが、県南地域では「不十分」が46.0%を占めて最も多い。

現在の治安対策について (地域別)



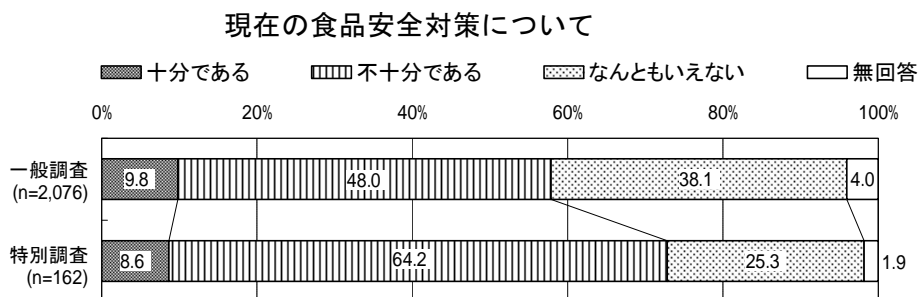
(6)現在の食品安全対策について

(全体集計)

- 現在の食品安全対策については、「不十分」が48.0%で最も多く、「なんともいえない」が38.1%、「十分」は9.8%であった。

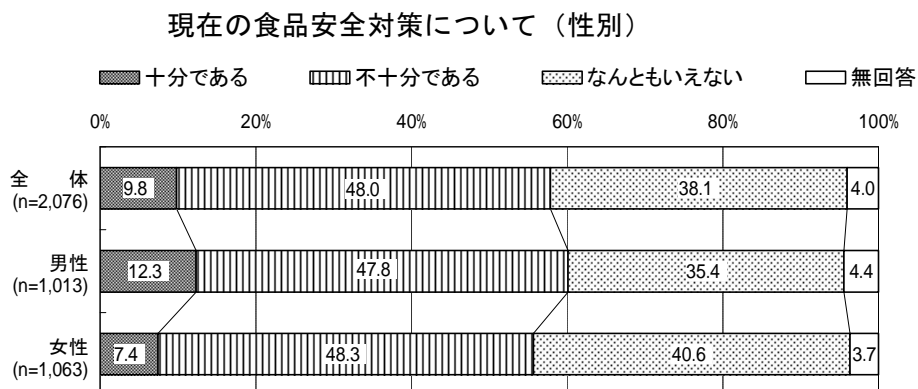
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においては「不十分」が64.2%となり、一般調査に比べて16ポイント強多い。



(性別)

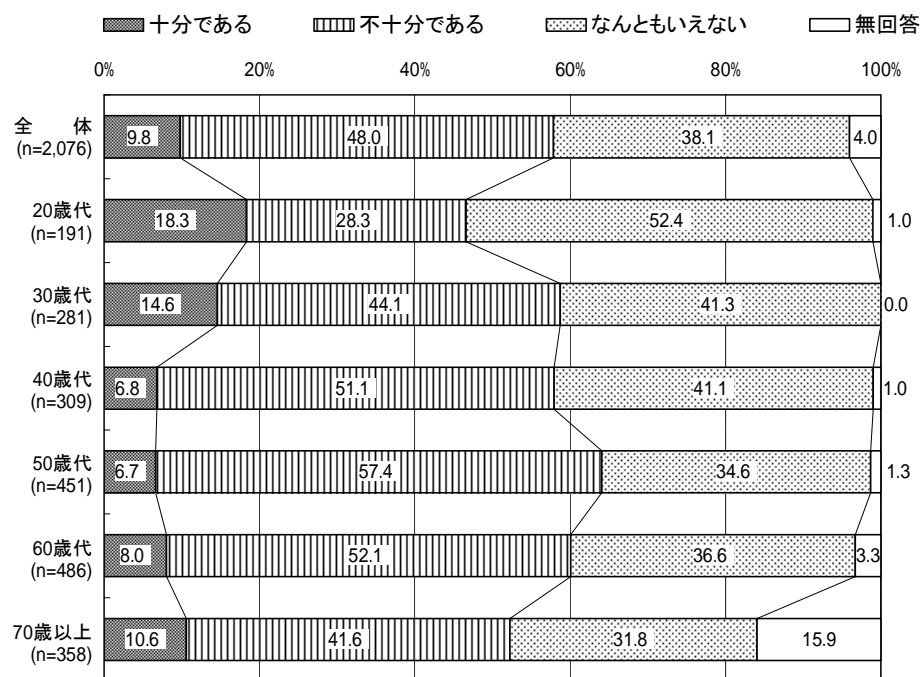
- 男女いずれも「不十分」が48%前後を占めて最も多いが、「十分」については男性の方が多く、女性では代わりに「なんともいえない」が男性より多い。



(年代別)

20歳代では「なんともいえない」が52.4%で過半数を占めたが、他の年代ではいずれも「不十分」が最も多くなっており、とくに40・50・60歳代ではその割合が50%を超えている。

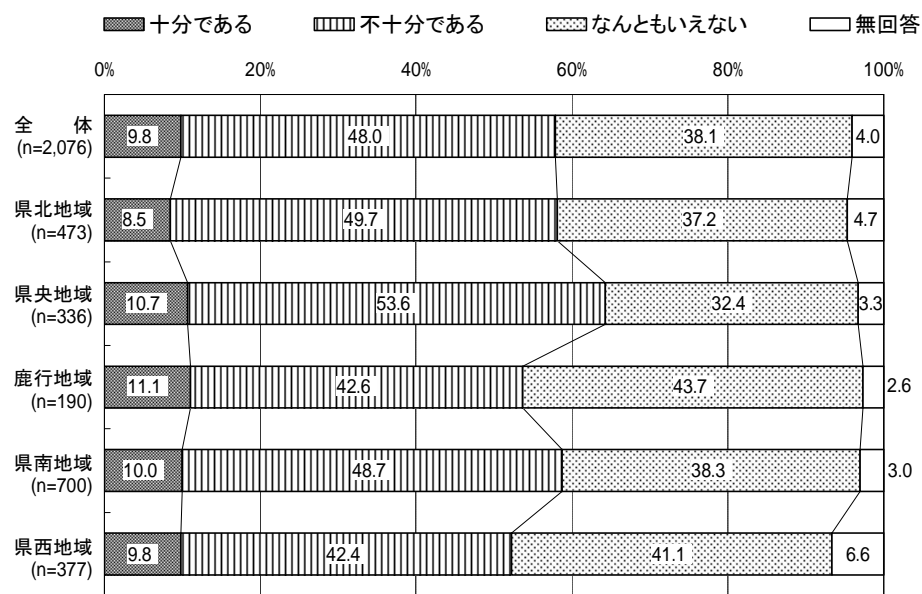
現在の食品安全対策について（年代別）



(地域別)

●ほとんどの地域で「不十分」が最も多く、特に県央地域ではその割合が53.6%と半数を超えているが、鹿行地域では「なんともいえない」(43.7%)が「不十分」(42.6%)を若干上回っている。

現在の食品安全対策について (地域別)



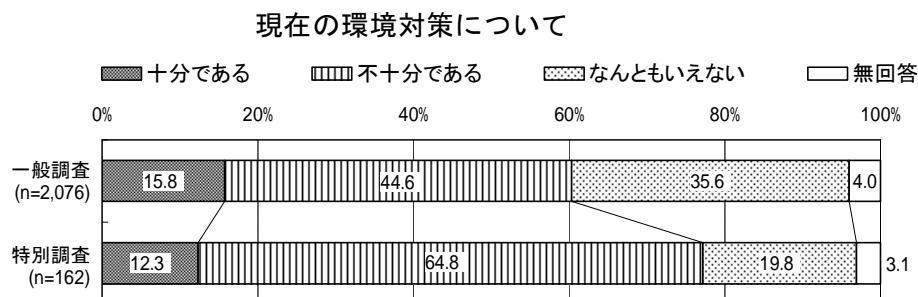
(7)現在の環境対策について

(全体集計)

- 現在の環境対策については、「不十分」が44.6%で最も多く、「なんともいえない」が35.6%、「十分」が15.8%であった。

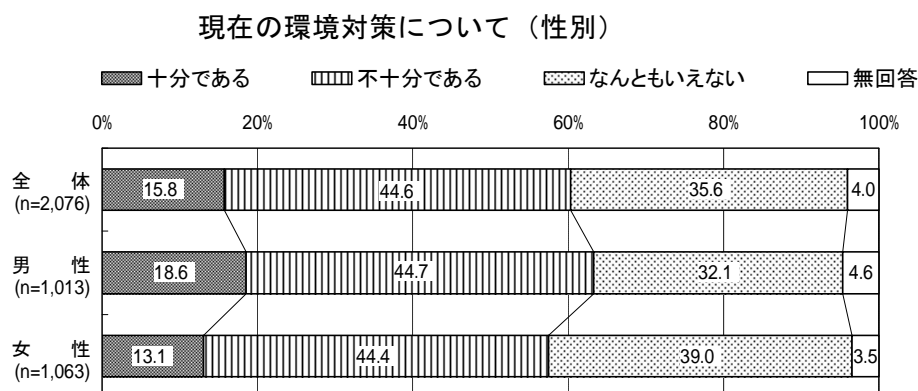
〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においては「不十分」が64.8%となり、一般調査に比べて20ポイント強多い。



(性別)

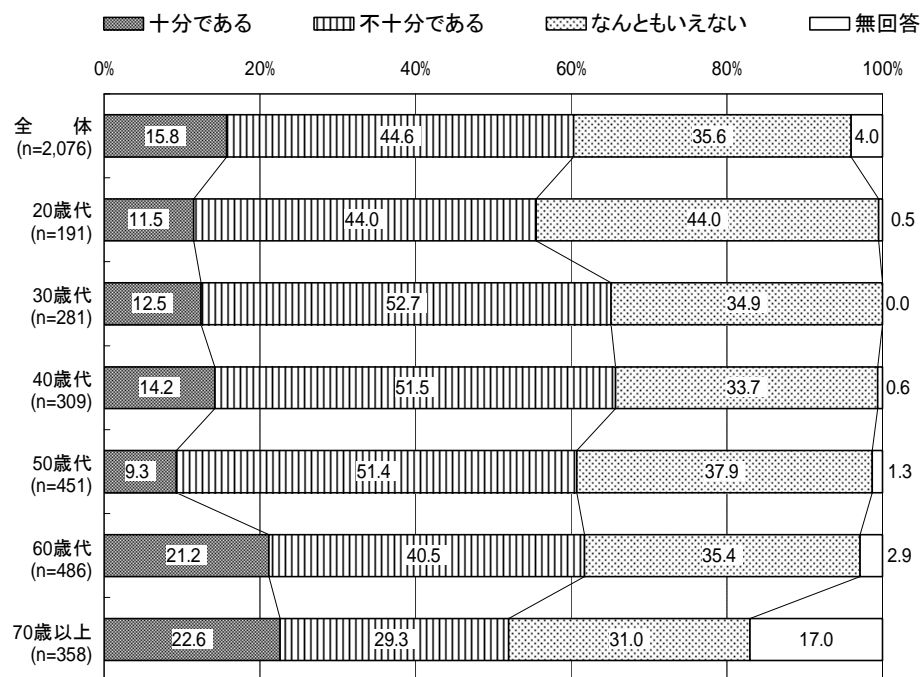
- 男女いずれも「不十分」が44%強を占めて最も多いが、「十分」については男性の方が多く、女性では代わりに「なんともいえない」が男性より多い。



(年代別)

30・40・50・60歳代では「不十分」が最も多く、とくに30～50歳ではその割合は50%を超えているが、70歳以上では「なんともいえない」が31.0%で最も多い。また、20歳代では「不十分」「なんともいえない」がいずれも44.0%で同率となっている。

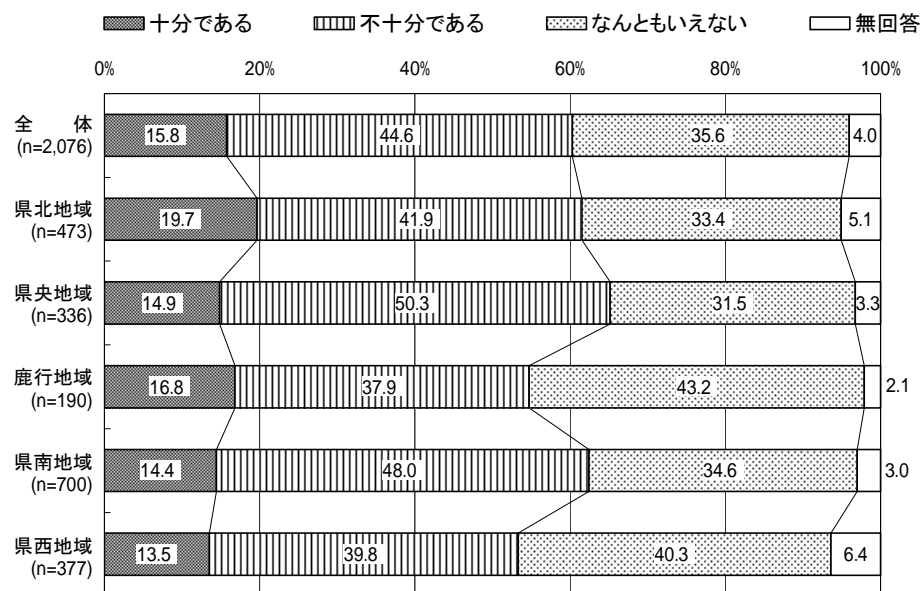
現在の環境対策について（年代別）



(地域別)

- 県北・県央・県南地域では「不十分」が40～50%を占めて最も多いが、鹿行・県西地域では「なんともいえない」が40%を超えて最も多い。

現在の環境対策について (地域別)



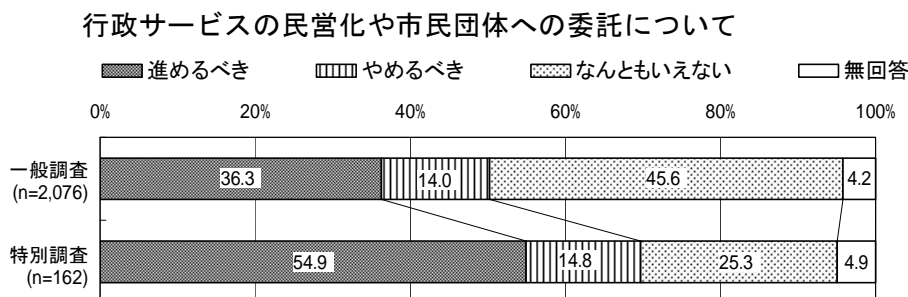
(8)行政サービスの民営化や市民団体への委託について

(全体集計)

- 行政サービスの民営化や市民団体への委託については、「なんともいえない」が45.6%を占めて最も多く、「進めるべき」は36.3%、「やめるべき」は14.0%であった。

〈地域代表者等調査との比較〉

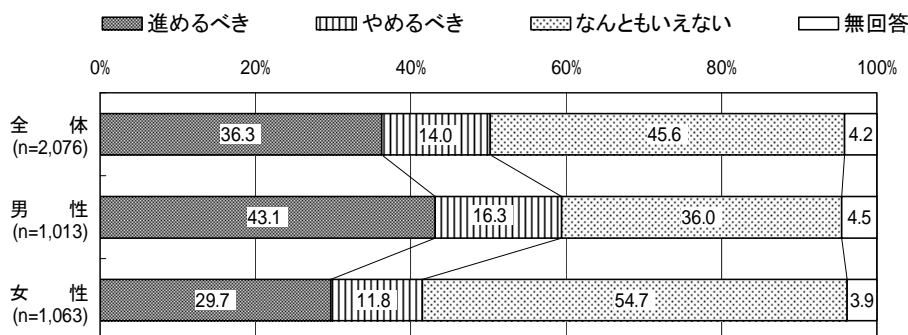
- ・地域代表者等調査においては「進めるべき」が54.9%で半数を超えており、一般調査に比べて19ポイント弱多い。



(性別)

- 男性は「進めるべき」が43.1%を占めて最も多いが、女性では「なんともいえない」が54.7%で過半数を超えている。

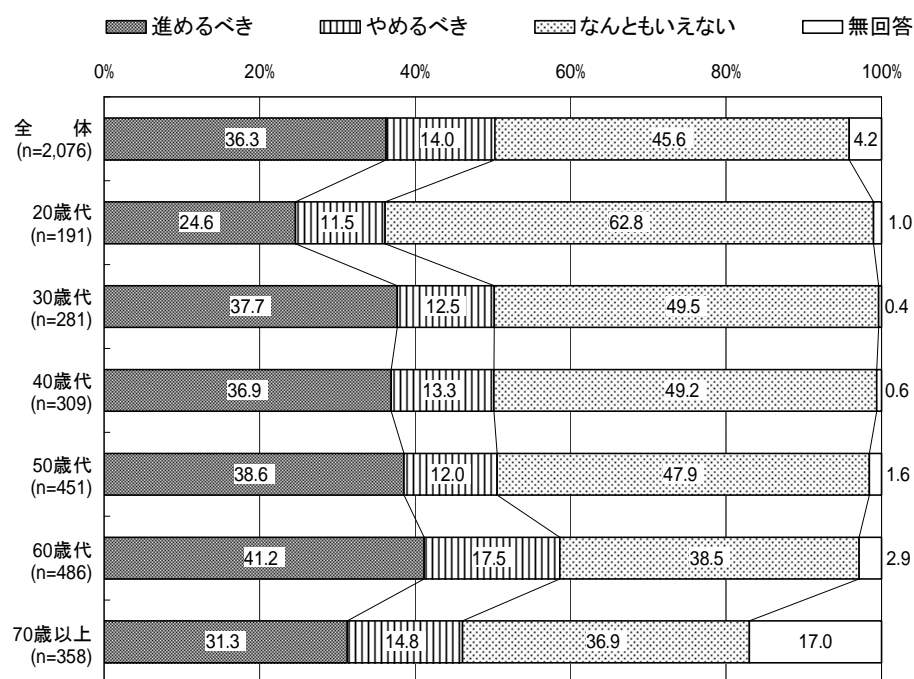
行政サービスの民営化や市民団体への委託について (性別)



(年代別)

●ほとんどの年代で「なんともいえない」が最も多いが、その割合は年代が上がるにつれて少なくなり、代わりに「進めるべき」が多くなる。とくに60歳代では「進めるべき」が41.2%にまで増えて「なんともいえない」(38.5%)より多くなる。

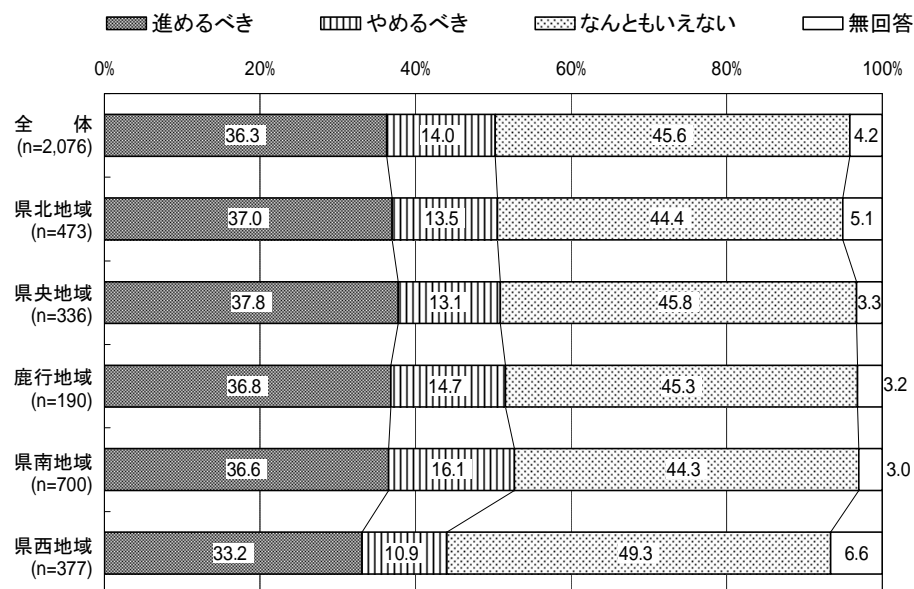
行政サービスの民営化や市民団体への委託について（年代別）



(地域別)

- 全ての地域で「なんともいえない」が最も多いが、とくに県西地域ではその割合が49.3%とほぼ半数を占め、他の地域では45%前後であることに比べて多い。

行政サービスの民営化や市民団体への委託について (地域別)



問5 各種生活環境についての現在の重要度，満足度

県民生活における重要度と満足度を把握するために、県民生活に関する 30 の項目について、重要度と満足度をそれぞれ 5 段階で示して回答を求めた。

今回の調査では、前回の 20 項目から 3 項目を削除し、新たに 13 項目を加えた計 30 項目について回答を求めた。削除項目・新規追加項目は以下の通りである。

前回調査項目から今回は削除した項目	主婦・高齢者や障害者を含め誰もが現在住んでいる地域で希望する仕事につける
	やりがいのある仕事や自分に適した仕事ができる
	寝たきり老人、母子家庭や障害児者家族などのための福祉サービスが充実している (高齢者福祉サービスと障害者支援の2つに分解して今回調査に加えた)
今回新たに追加した項目	職業紹介や職業訓練のための施設や内容が充実している
	省エネなど地球温暖化防止対策がとられている
	原子力関連施設の安全対策がとられており安心できる
	商品やサービスなどへの不満や苦情について相談できるところがある
	仕事と家庭の両立が図られている
	子育ての悩みや困りごとを相談できる人や場所がある
	里山など身近な自然環境が守られている
	空き缶などの資源ゴミがリサイクルされている
	差別などがなく、人権が尊重されている
	地域の行事が盛んで住民間の結びつきが強い
	外国人との共生社会への対応がなされている
	高齢者への福祉サービスが充実している
障害児・者への支援が充実している	

(1) 県民の生活における重要度

30 項目のそれぞれについての重要度を 5 段階で提示し、回答を求めた。また、集計段階では、重要度を数値化するために以下に示すように各重要度合に点数をつけ、項目ごとに回答者の平均値を算出し、重要度とした。したがって、平均値が 5 点に近くなるほど重要度が高くなることになる。

重要度 (5段階)	点数
とても重要である	5 点
重要である	4 点
どちらともいえない	3 点
あまり重要でない	2 点
全く重要でない	1 点

(全体集計)

- 今回提示した 30 項目に対する重要度の平均値は 3.99 であった。
- 重要度が最も高い項目は「医療環境」(平均 4.55)で、以下、「老後の保障」(同 4.53)、「防犯」(同 4.37)、「雇用安定」(同 4.32)、「環境衛生」(同 4.27)と続く。
- 一方、重要度が最も低い項目は「情報環境」(平均 3.34)で、以下、「文化・スポーツ施設」(同 3.40)、「市民活動」(同 3.42)、「外国人との共生」(同 3.45)、「地域行事」(3.59)と続く。

(重要度順位)

分野 (重要度順位)	重要度	
	重要度	備考
1 医療環境	4.55	
2 老後の保障	4.53	
3 防犯	4.37	
4 雇用安定	4.32	
5 環境衛生	4.27	
6 高齢者福祉サービス	4.26	新規
7 公害防止	4.19	
8 交通安全	4.17	
9 原子力関連安全対策	4.14	新規
10 防災	4.13	
11 教育環境	4.13	
12 リサイクル	4.12	新規
13 食の安全	4.07	
14 交通の便	4.06	
15 乳幼児・学童保育	4.03	

分野 (重要度順位)	重要度	
	重要度	備考
16 障害児者支援	4.01	新規
17 就業支援	4.00	新規
18 仕事と家庭の両立	3.99	新規
19 人権尊重	3.99	新規
20 地球温暖化防止対策	3.96	新規
21 行政参加	3.95	
22 道路整備	3.94	
23 子育て相談	3.93	新規
24 自然環境保護	3.79	新規
25 消費者相談	3.70	新規
26 地域行事	3.59	新規
27 外国人との共生	3.45	新規
28 市民活動	3.42	
29 文化・スポーツ施設	3.40	
30 情報環境	3.34	

(前回調査との比較)

● 前回調査と比べると、上位5項目は同じ項目が占めているが順位は変動している。1位が「医療環境」であることは同じであるが、「老後の保障」(3位→2位)、「雇用安定」(5位→4位)が順位を上げ、「防犯」(2位→3位)、「環境衛生」(4位→5位)が順位を下けている。また、前回調査での6位から20位までの項目は多くがその順位を下けている中で、「高齢者福祉サービス」(前は福祉サービスとして9位→今回は高齢者福祉サービスとして6位)、「公害防止」(8位→7位)、「乳幼児・学童保育」(17位→15位)が順位を上げており、また、今回追加した項目の中から「原子力関連安全対策」(9位)、「リサイクル」(12位)、「就業支援」(17位)、「仕事と家庭の両立」(18位)、「人権尊重」(19位)、「地球温暖化防止対策」(20位)が新たに20位以内にランクインしている。

重要度順位		93年		重要度順位		99年		重要度順位		04年		重要度順位			09年		04→09年	
	分野		得点		分野		得点		分野		得点		分野		得点		ポイント差	
1	救急医療	4.4		1	救急医療	4.38		1	救急医療	4.44		1	医療環境	4.55	0.11			
2	老後の保障	4.3		2	老後の保障	4.33		2	防犯	4.41		2	老後の保障	4.53	0.12			
3	環境衛生	4.3		3	環境衛生	4.23		3	老後の保障	4.41		3	防犯	4.37	-0.04			
4	交通安全	4.2		4	公害防止	4.18		4	環境衛生	4.27		4	雇用安定	4.32	0.08			
5	公害防止	4.1		5	雇用安定	4.14		5	雇用安定	4.24		5	環境衛生	4.27	0.00			
6	防災	4.1		6	防災	4.12		6	防災	4.21		6	高齢者福祉サービス	4.26	新規			
7	福祉サービス	4.0		7	交通安全	4.10		7	交通安全	4.21		7	公害防止	4.19	0.00			
8	教育環境	4.0		8	福祉サービス	4.06		8	公害防止	4.19		8	交通安全	4.17	-0.04			
9	行政参加	4.0		9	教育環境	3.99		9	福祉サービス	4.11		9	原子力関連安全対策	4.14	新規			
10	雇用安定	4.0		10	行政参加	3.93		10	教育環境	4.07		10	防災	4.13	-0.08			
11	道路整備	3.9		11	仕事の生きがい	3.88		11	食の安全	4.05		11	教育環境	4.13	0.06			
12	健康相談	3.9		12	交通の便	3.88		12	行政参加	4.02		12	リサイクル	4.12	新規			
13	交通の便	3.9		13	道路整備	3.86		13	交通の便	4.01		13	食の安全	4.07	0.02			
14	仕事の生きがい	3.8		14	雇用機会	3.83		14	仕事の生きがい	3.97		14	交通の便	4.06	0.05			
15	雇用機会	3.8		15	健康相談	3.83		15	道路整備	3.95		15	乳幼児・学童保育	4.03	0.10			
16	住宅取得	3.8		16	幼児保育	3.79		16	雇用機会	3.94		16	障害児者支援	4.01	新規			
17	幼児保育	3.7		17	住宅取得	3.66		17	幼児保育	3.93		17	就業支援	4.00	新規			
18	学習・文化施設	3.5		18	学習・文化施設	3.47		18	学習・文化施設	3.66		18	仕事と家庭の両立	3.99	新規			
19	消費者相談	3.4		19	消費者相談	3.37		19	市民活動	3.34		19	人権尊重	3.99	新規			
20	公園・運動施設	3.3		20	公園・運動施設	3.28		20	情報環境	3.17		20	地球温暖化防止対策	3.96	新規			
												21	行政参加	3.95	-0.07			
												22	道路整備	3.94	-0.01			
												23	子育て相談	3.93	新規			
												24	自然環境保護	3.79	新規			
												25	消費者相談	3.70	新規			
												26	地域行事	3.59	新規			
												27	外国人との共生	3.45	新規			
												28	市民活動	3.42	0.08			
												29	文化・スポーツ施設	3.40	-0.26			
												30	情報環境	3.34	0.17			

(2) 県民の生活における満足度

30 項目のそれぞれについての満足度を 5 段階で提示し、回答を求めた。また、集計段階では、満足度を数値化するために以下に示すように各満足度合に点数をつけ、項目ごとに回答者の平均値を算出し満足度とした。したがって、平均値が 5 点に近くなるほど満足度が高くなることになる。

満足度(5段階)	点数
満足している	5 点
やや満足している	4 点
どちらともいえない	3 点
やや不満である	2 点
不満である	1 点

(全体集計)

- 今回提示した 30 項目に対する満足度の平均値は 2.93 であった。
- 満足度が最も高い項目は今回新たに追加した「リサイクル」(平均 3.71)で、以下、「食の安全」(同 3.64)、「医療環境」(同 3.36)、「情報環境」(同 3.35)、「道路整備」(同 3.32)などと続く。
- 一方、満足度が最も低い項目は「老後の保障」(平均 2.00)で、以下、「雇用安定」(同 2.33)、「交通の便」(同 2.49)、「就業支援」(同 2.51)、「行政参加」(同 2.54)などと続く。

(満足度順位)

分野 (満足度順位)	満足度	
	満足度	備考
1 リサイクル	3.71	新規
2 食の安全	3.64	
3 医療環境	3.36	
4 情報環境	3.35	
5 道路整備	3.32	
6 人権尊重	3.27	新規
7 自然環境保護	3.19	新規
8 市民活動	3.06	
9 公害防止	3.04	
10 子育て相談	3.04	新規
11 仕事と家庭の両立	3.03	新規
12 地域行事	3.02	新規
13 防犯	2.98	
14 教育環境	2.98	
15 原子力関連安全対策	2.97	新規

分野 (満足度順位)	満足度	
	満足度	備考
16 外国人との共生	2.95	新規
17 文化・スポーツ施設	2.93	
18 環境衛生	2.92	
19 防災	2.92	
20 交通安全	2.90	
21 消費者相談	2.78	新規
22 乳幼児・学童保育	2.77	
23 障害児者支援	2.72	新規
24 地球温暖化防止対策	2.62	新規
25 高齢者福祉サービス	2.59	新規
26 行政参加	2.54	
27 就業支援	2.51	新規
28 交通の便	2.49	
29 雇用安定	2.33	
30 老後の保障	2.00	

(3) 県民の生活におけるニーズ度

ニーズ度は、以下の算式により数値化して求めた。

$$\text{「ニーズ度」} = \text{「重要度} \times \text{不満足度」}$$

※不満足度は、満足度とは逆に、「満足している：1点」「やや満足している：2点」「どちらともいえない：3点」「やや不満である：4点」「不満である：5点」として項目ごとに回答者の平均値を算出して（不満足度は5点に近くなるほど高くなる）、重要度に乗じた。

(全体集計)

- ニーズ度が最も高い項目は「老後の保障」（ニーズ度 18.4）で、以下、「雇用安定」（同 16.2）、「高齢者福祉サービス」（同 14.8）、「交通の便」（同 14.4）、「就職支援」（同 14.2）などと続く。
- 一方、ニーズ度が最も低い項目は「情報環境」（ニーズ度 8.6）で、以下、「リサイクル」（同 9.3）、「食の安全」（同 9.5）、「市民活動」（同 9.9）、「文化・スポーツ施設」（同 10.4）などと続く。

(ニーズ度順位)

分野 (ニーズ度順位)	ニーズ度	
	ニーズ度	備考
1 老後の保障	18.4	
2 雇用安定	16.2	
3 高齢者福祉サービス	14.8	新規
4 交通の便	14.4	
5 就職支援	14.2	新規
6 行政参加	13.9	
7 地球温暖化防止対策	13.6	新規
8 障害児・者支援	13.4	新規
9 防犯	13.3	
10 環境衛生	13.2	
11 乳幼児・学童保育	13.2	
12 交通安全	13.0	
13 防災	12.8	
14 原子力関連の安全対策	12.6	新規
15 公害防止	12.6	

分野 (ニーズ度順位)	ニーズ度	
	ニーズ度	備考
16 教育環境	12.6	
17 医療環境	12.1	
18 消費者相談	12.0	新規
19 仕事と家庭の両立	11.9	新規
20 子育て相談	11.6	新規
21 人権尊重	10.9	新規
22 道路整備	10.7	
23 地域行事	10.6	新規
24 自然環境保護	10.6	新規
25 外国人との共生	10.5	新規
26 文化・スポーツ施設	10.4	
27 市民活動	9.9	
28 食の安全	9.5	
29 リサイクル	9.3	新規
30 情報環境	8.6	

(前回調査との比較)

●前回調査においても県民ニーズは「老後の保障」が最も高かったが、今回そのニーズ度はさらに上昇した。今回の県民ニーズ上位10項目を見ると、前回の上位10項目(注2)の内の7項目(「老後の保障」「防犯」「雇用安定」「行政参加」「交通の便」「高齢者福祉サービス」「障害児者支援」)が残り、あらたに前回16位の「環境衛生」、そして今回新たに加えた項目の中の2項目(「就業支援」「地球温暖化防止対策」)が加わる形となった。

(注2)今回は調査項目としなかった「雇用機会」「仕事の生きがい」を除き、前回調査での上位12項目までを見た。

ニーズ度順位		99年	ニーズ度順位		04年	ニーズ度順位		09年	04→09年
分野	得点		分野	得点	分野	得点	ポイント差		
1	老後の保障	16.2	1	老後の保障	16.5	1	老後の保障	18.4	1.9
2	雇用機会	15.0	2	雇用機会	15.2	2	雇用安定	16.2	1.7
3	雇用安定	14.5	3	防犯	14.8	3	高齢者福祉サービス	14.8	2.0
4	防災	14.1	4	雇用安定	14.5	4	交通の便	14.4	1.5
5	行政参加	14.0	5	行政参加	14.1	5	就業支援	14.2	新規
6	交通安全	13.7	6	救急医療	13.9	6	行政参加	13.9	-0.2
7	救急医療	13.6	7	防災	13.9	7	地球温暖化防止対策	13.6	新規
8	高齢者、障害児・者福祉サー	13.4	8	交通安全	13.6	8	障害児・者支援	13.4	
9	公害防止	13.0	9	交通の便	12.9	9	防犯	13.3	-1.5
10	乳幼児・学童保育	13.0	10	乳幼児・学童保育	12.9	10	環境衛生	13.2	1.6
11	仕事の生きがい	12.8	11	仕事の生きがい	12.8	11	乳幼児・学童保育	13.2	0.3
12	環境衛生	12.8	12	高齢者、障害児・者福祉サー	12.7	12	交通安全	13.0	-0.5
13	教育環境	12.8	13	教育環境	12.5	13	防災	12.8	-1.2
14	交通の便	12.6	14	公害防止	12.2	14	原子力関連の安全対策	12.6	新規
15	道路整備	12.5	15	道路整備	11.8	15	公害防止	12.6	0.4
16	消費者相談	12.2	16	環境衛生	11.6	16	教育環境	12.6	0.1
17	住宅取得	12.1	17	学習・文化施設	10.8	17	医療環境	12.1	-1.9
18	健康相談	11.7	18	市民活動	10.7	18	消費者相談	12.0	新規
19	学習・文化施設	11.6	19	食の安全	10.1	19	仕事と家庭の両立	11.9	新規
20	公園・運動施設	10.1	20	情報環境	9.4	20	子育て相談	11.6	新規
						21	人権尊重	10.9	新規
						22	道路整備	10.7	-1.1
						23	地域行事	10.6	新規
						24	自然環境保護	10.6	新規
						25	外国人との共生	10.5	新規
						26	文化・スポーツ施設	10.4	-0.4
						27	市民活動	9.9	-0.8
						28	食の安全	9.5	-0.6
						29	リサイクル	9.3	新規
						30	情報環境	8.6	-0.8